

とまこまい広域農業協同組合の第12回通常総代会が、本町で盛会に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、胆振東部の各市町から当町へ多くの総代にお越しいただき、心からご歓迎申し上げます。皆様方には、日頃から安全・安心な食の安定供給と農業の持続的発展のためそれぞれの地域においてご活躍をいただいておりますことに、心から敬意を表する次第であります。また、ただ今、報徳善行賞と共励会の表彰がありましたが、受賞者の皆様の日頃のご努力にあらためて敬意を表する次第であります。

昨年の作況状況は、組合長のご挨拶にありましたので重複は避けますが、良くも悪くも天候の変化は著しいものがあり、対応は難しい面があったと思います。そのような中でも、今回、共励会表彰を受けられた方々を始め組合の皆様のご努力により多大な成果があったことは、誠に喜ばしい限りであり、今後とも広域ブランドの評価が高まるよう生産技術のご研鑽をお願いいたします。また、組合長のご挨拶に広域農協の販売額が108億円となり、計画対比で110%と合併後最高額となったとありましたが、偏に組合長を中心として組合員、職員の一致協力したご努力の賜であり重ねてお祝いを申し上げます。

さて、アベノミクスに景気浮揚への期待感が高まりを見せていますが、成長戦略としてTPP交渉参加表明を行ったことは、地方にとって、特に北海道においては衝撃的なものであります。

12カ国目という最後尾にあつて、残された交渉期間に限りがあるという極めて不利な状況にある中、重要5品目がどう守られ、国内の秩序と安全が保障される根拠がどこにあるのか、僅かなGDP増加が国益と言えるのか、国益が守られない場合は撤退できるのかなど懸念を拭えない訳ではありますが、それでも先行11カ国中7カ国が日本の参加を承認しており、事前交渉は着々と進んでいる様子であります。

安倍首相は例外なき関税撤廃を前提としていないと説明していますが、国民の合意形成を阻む秘密交渉であり、高度な自由化を目指すTPPの本質は全く変わるものではなく、国内農業・農村への影響が計り知れない中にあつて、食料安全保障の観点からも引き続き管内全ての組合員・関係機関が結集して、TPP交渉からの脱退を強く求めていかなければならないと考えています。

一方で、国内農業は利益率の低下・農業所得の減少や担い手不足などの構造的な諸課題に直面しており、貿易の自由化如何に関わらず、競争力の向上や体質強化が喫緊の課題となっています。

政府においては、「攻めの農林水産業推進本部」を設置し、経営所得安定制度を中心とする「担い手総合支援」を具体化し、海外の市場開拓や付加価値の創造などこれまでと次元の違う戦略を検討していくとしています。

厳しい経済情勢と地方財政状況にありますが、本町では引き続き食糧基地の一員としての使命を果たしていくためにも、厚幌ダム建設、国営農業用水再編対策事業、道営ほ場整備の生産基盤整備と併せて組合員の共同利用施設、戦略設備などへの支援や経営体の体質強化に取り組んでまいりました。また、グリーンツーリズムや6次産業化、ブランド化など

農業・農村の付加価値を高めるための様々なアプローチを行っているところでもあります
が、何れにしてもJAや組合員との連携が重要であります。今後とも組合長を始として役職
員の皆様には、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年は、例年になく雪解けの遅い年となりましたが、農作業がいよいよ本格化してまい
ります。くれぐれも安全作業と万全な肥培管理に努めていただき、無事豊穰の秋を迎えて
いただきたいと思います。結びに、とまこまい広域農業協同組合と組合員のご発展と本日
ご参会の皆様のご健勝を心からご祈念申しあげ、挨拶いたします。

平成25年4月10日

厚真町長 宮坂尚市朗